

## 学習や生活に関する改善プラン

※本改善プランは、岡山市教育委員会の統一した様式です。

本校は、全国学力・学習状況調査結果をもとに授業等の改善を行うため、「学習や生活に関する改善プラン」を作成しました。本校の状況を知っていただいた上で、子どもたちの学習や生活習慣の改善に向けて支援していただきたいと思います。

なお、さらに詳細な結果について、調査対象の学年に配付することとしています。

### 【全国学力・学習状況調査結果の概要】

#### 成果

- ・平成29年度実施の全国学力・学習状況調査では、無回答率がたいへん低くなりました。これは、最後まで問題を諦めずに取り組もうとする姿勢が向上したためと考えられます。
- ・質問用紙結果から、1、2年生に受けた授業では、「生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理をして、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」の問いに対する肯定的な回答率が県・全国平均を大きく上回っています。これは、各教科や総合的な学習の時間を通して、生徒が主体的に活動できる場の設定を行う工夫をし、心が触れ合う集団づくりを行ってきた成果だといえます。また、「自分には、良いところがあると思いますか」の問いに対する肯定的な回答率が県・全国平均を大きく上回り、自己肯定感が高い結果になりました。これは、学校での生活を通してお互いを認め合い、切磋琢磨する中で成長してきたことの証だといえます。

#### 課題と対応

- ・国語、数学の2教科とも県・全国の平均正答率を下回っています。しかし、設問の中で国語Aの「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと」に関する問題や数学Aの「関数に関する問題」においては、県平均を上回ることができました。
- ・特に、国語B：主として活用では、「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」、「事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように話す」、数学Bでは、「問題解決の方法を数学的に説明する」、「証明した事柄を用いて、新たな性質を見出す」に課題があることが分かりました。
- ・今後は、各教科で基礎的・基本的な知識の定着を継続しながら、授業の中で思考・判断・表現する場面設定を行い、学んだ知識をより深めることのできる授業づくりを行っていく必要があります。
- ・質問紙調査の結果から、家庭でのテレビや携帯電話（スマートフォン）の利用時間が多く、家庭学習の時間が短くなっている傾向があることがわかります。
- ・今後は、携帯電話（スマートフォン）の利用について、生徒自身に考えさせる場面をもちながら、啓発活動を充実させたいと思います。また、家庭との連携を密にし、家庭学習の習慣を身に付ける取組を考えていきたいと思っています。

### 【保護者・学区の方へのお願い】

- ・本校生徒は、県・全国平均に比べ、家庭での触れ合いや地域でのボランティア活動に喜びを感じている比率が高く、家庭・地域の教育力が生きている結果となりました。しかし、テレビやゲーム、携帯電話（スマートフォン）に費やす時間が多い傾向にあるという結果も分かりました。今後学校では、小学校と連携しながら、定期考査週間などを利用してメディアコントロールに力を入れていきたいと考えています。
- ・今後の進路選択に向けて、困難に立ち向かい主体的に考えることで、自分の将来と向き合う姿勢を、保護者の方々と連携しながら養っていききたいと考えています。
- ・なお、本調査の結果から測定されるのは、実施した教科について、生徒の学力の特定の一部、また学校における教育活動の一側面であり、学力の全てを表すものではないことを申し添えます。

